

今年には台風の当たり年で、特に台風24号は関東にも大きな被害をもたらしました。

太平洋からの強風は、五日市方面の山間部より、多摩川から秋川への平坦地で樹木を根元から倒したり、大きな枝を裂いたりといった大きな被害を出しました。この時、10月1日午前0時過ぎに瞬間最大風速45.6mを記録したそうです。(統計以来最大)



上の写真は、あきる野市の文化財として「天然記念物」に指定されていたサイカチの大木です。根元からポキリと折れてしまいました。倒れた根株の直径が170cm程もある見事な大木でした。この木は、個人所有でその方の自宅の庭に植わっていましたが、大木が倒れましたが、周りの庭木を少しつぶした程度で、大きな被害に至らなかったのは不幸中の幸いです。しかし、貴重な文化財が失われたことは残念でなりません。

サイカチの実にはサポニンが含まれており、昔から石鹸の代わりに使われていたと言います。特に絹を洗うときアルカリ性の石鹸を使うと絹が痛むため、サイカチの実が使われていたと文献にありました。この地域の小川久保桜公園には、まだサイカチの大木が残っています。もしかしたら、サイカチは、この地域の養蚕文化と密接に繋がっていたのではないかと思います。興味のある方は、是非「小川久保桜公園」のサイカチ(市の保存樹木)を見に行ってください。



小川久保桜公園のサイカチ

折れた面を見ると腐朽菌により木の芯が腐っていました。強風に耐え切れなくなり折れてしまったようです。根株周辺にキノコ(子実体)は見当たりませんでしたが、菌の種類は「褐色腐朽菌類」でした。樹木の色素を含むリグニンを分解できないため、褐色のブロック状になる腐り方をします。サルノコシカケなどが代表的なキノコです。

～ 白くなる腐朽菌「白色腐朽菌類」～

樹木細胞のセルロース、ヘミセルロース、リグニンなど全てを分解する菌類。分解が終わった樹木は、白くフワフワな物になります。代表的なキノコはシイタケなどになります。





草花丘陵のハイキングコースでも倒木が発生しました。北に向かって倒れています。東京湾から多摩川沿いに吹き抜けてくる風が平井川に入り込み、谷が狭くなるに連れて風が集束され、丘陵の奥で風圧が強まり、簡単に木々をなぎ倒したと考えられます。

街路樹や庭木の場合は、風が枝の間を抜けていくように剪定をしますが、野山の木々は伸びた枝葉全てで風を受けるため、根張りが良いと言われる広葉樹でも風で倒れてしまいます。



風の影響は地形に大きく左右されるため、台地から一段下がったところは影響を受けにくくなります。しかし、一段下がっていても背が高くなった木々の梢は、台地を吹き抜ける強風を受けてしまいます。そのため、テコの原理で木の根元が簡単に浮き上がることがあります。上の写真は、これまで風が当たらない環境で育ってきたヒノキですが、樹高が高くなり風を受けるようになったことで、幹が曲がったり根が浮いたり倒れたりしています。森や巨木が育ち続けることはとても難しいことがわかります。